

# 参議院北朝鮮による拉致問題等に関する特別委員会(第百六十一回閉会後)会議録第一号

平成十六年十二月十四日(火曜日)

午後二時開会

委員の異動

十二月八日

辞任

田村 秀昭君

緒方 靖夫君

十二月十三日

辞任

愛知 治郎君

小川 敏夫君

吉川 春子君

補欠選任

森 ゆうこ君

吉川 春子君

補欠選任

山本 順三君

江田 五月君

緒方 靖夫君

出席者は左のとおり。

委員長

内藤 正光君

理事

景山俊太郎君

小林 温君

広野ただし君

森 ゆうこ君

委員

小野 清子君

北川イッセイ君

末松 信介君

関口 昌一君

田中 直紀君

山谷えり子君

山本 順三君

江田 五月君

津田弥太郎君

白 眞勲君

林 久美子君

木庭健太郎君

渡辺 孝男君

国務大臣

外務大臣

国務大臣

(内閣官房長官)

国務大臣

(国家公安委員会委員長)

内閣官房副長官

内閣官房副長官

副大臣

外務副大臣

事務局側

常任委員会専門員

政府参考人

内閣官房拉致被害者・家族支援室長

警察庁警備局長

外務省アジア大洋州局長

外務省国際法局長

経済産業大臣官房審議官

緒方 靖夫君

町村 信孝君

細田 博之君

村田 吉隆君

杉浦 正健君

谷川 秀善君

泊 秀行君

小熊 博君

瀬川 勝久君

萩中三十二君

林 景一君

長谷川榮一君

(北朝鮮による日本人拉致問題の解決促進に関する決議の件)

以下2ページから4ページまで省略

省略

○白眞勲君 民主党・新緑風会の白眞勲でございます。

今、林委員からありましたように、今回の実務者協議におきまして、特にこの横田めぐみさんの骨というものが偽物だったということにつきましましては、国民の全員が怒っていることは間違いないわけでございまして、そういう中で様々な手段を用いて、やはり一番大きな目的は、今北朝鮮に拉致された人たちを何とか無事に取り戻すことであるというふうにも私は思っておりますが、先ほど外務大臣からも、様々な外交努力でい

ろいろな機会を見付けてこの問題を世界にもアピールしていきたいとおっしゃっていました。

ちなみに、ちょうどこの十七日には鹿児島県の指宿市で盧武鉉韓国大統領と小泉首相が首脳会談をするということでございますが、まず官房長官にお聞きします。

この場でどういう、何かそういう、大統領、韓国の盧武鉉大統領に対して何か働き掛けをする具体的なことというのは今考えていらっしゃるのでしょうか。

○国務大臣(町村信孝君) ちょっとこれは外交のあれですから、私の方からお答えをさせていただきます。

今委員御指摘のように、指宿で日韓首脳会談が開かれます。先方、外務大臣が来られるということなので私も参ろうかと、かように思っております。

どういふ会談内容になるのか、まだいわれる議題の設定といったようなものにはまだ至っておりませんけれども、常識的にだれしもがこの時期考えるテーマというのは、一つは、来年は日韓友情年二〇〇五年ということで日本と韓国の二国間関係の話、そのほか、愛知万博に合わせたビザ免除の話でありますとか日韓のFTAの問題、あるいは関税相互支援協定といったような問題等々、これは日韓の二国間では話があると思います。もちろん、それにとどまらず、多国間の問題もあらうと思えます。当然のことではありますが、まだ議題として設定したわけはありませんが、この北朝鮮の問題が話題にならないはずなあらうと、こう思っております。当然ここでいろいろな話合いが行われる、それ以外にも、国際的な問題といったことは、例えば国連改革の問題といったようなことも話題になるのかなど、そのほかいろいろなテーマもあらうかと思えますので、様々な問題が取り上げられる可能性があります。

ように理解をいたしております。○白眞勲君 その拉致の問題につきまして、もっと具体的に何かどういった働き掛けをしたいと韓国に対してですね、それについては今考えていらっしゃるのでしょうか。○国務大臣(町村信孝君) まだ本件では小泉総理と詰めた打合せをしておりませんので、金曜日、土曜日ですから、その前には機会を得て総理とはお話をしたいと思っております。○白眞勲君 是非、特にこういった機会というのはそうめったにあるわけじゃありませんから、頑張つて、お互いに日本と韓国でこの拉致問題についての協力関係というものを結べるように御尽力をいただきたいと思えます。続きまして、今回の横田めぐみさんの骨というものほかにも、やはり今一番大きなポイントになつていられるのは、やはり横田めぐみさんの夫であると言われているキム・チョルジュンなる人のことについてお聞きしたいと思えます。特に、このキム・チョルジュンさんごもみさんの夫でないということになつたならば、もうこれは本当に完全に北朝鮮の今までのやつていられることというのは全部もうめちやくちやと、言うなれば、そういうことにもなりかねない非常に大きな問題はあらうというふうにも考えているんですけれども。警察庁にお伺いいたします。警察庁も今回一緒に、今回の実務者協議で同席し、それなりの専門家もいらつしやつたということですので、彼のモニタージュ写真あるいは似顔絵といったものというものは作つていらっしゃるのでしょうか。○政府参考人(瀬川勝久君) 御指摘の人物の特定のための作業につきまして、警察といたしましては、各種情報の精査、検証等を通じて、その真実の究明に向けて努力を重ねている段階でございます。現段階、今そういう作業中でございますので、その状況につきまして具体的に申し上げることは差し控えさせていただきますと思っております。

す。○白眞勲君 なぜその、作業中と言うんですけれども、もう大方たちましたよね。ですから、普通私なんか考えるには、その場で、会つた人がその場でまずもうかいてしまわないと、だんだん人間の記憶というのは忘れてしまつていくわけですから、当然そこである程度の似顔絵とか何かというのはあふうなことであります。現在捜査中というふうなことなんですけれども、その辺の真意がちょっとよく分からないんです。特に今回のこの問題については、彼は工作機関に勤めているというふうには言っておりまして、工作機関ということは、韓国とかあるいは日本とか、そういったところによつてはスパイとして活動していたという可能性だつてあるわけなんです。そうしますと、やはり一般の人たちに広くその情報を求めるためにも、この方のそういう似顔絵とか何かを一般に公開してもいいんではないかと私は思うんですけれども、その辺につきましてはいかがでございますか。○政府参考人(瀬川勝久君) 先ほど御答弁申し上げましたとおり、その御指摘の人物の特定につきましては今鋭意作業中でございます。公表してはどうかということでございますけれども、正にそういう作業を進めている段階でございますので、その取扱いについて方針を申し上げるといふのは現段階では差し控えさせていただきますと思ひますが、そういうものも取扱いについては今後しっかり検討を、関係の省庁とも、関係機関とも連携をして検討してまいりたいというふうには考えております。

それと同時に、裁中局長にお聞きしたいと思います。○白眞勲君 キム・チョルジュンさんと握手したか。○政府参考人(裁中三十三君) お答え申し上げます。今の状況としてもう一度思い返しているところでございますけれども、最初に会つて、恐らく握手はしたんだろうというふうには思います。○白眞勲君 何かその、これはいろんな報道によりますと、細胞を採取したとかいうような話もあるわけなんですけれども、そういうことというのは実際今回やられたんでしょうか。○政府参考人(裁中三十三君) お答え申し上げます。先ほどの答弁にもございましたように、この本人の本人確認と人物の特定ということについては、当然のことながら調査団としても非常に大きな関心を持って臨んだわけでございますが、そういう意味で、前にも御説明したと思ひますが、毛髪の提供を求めたということもございました。これについては先方は、本人の身分といふこと、職業上の関係ではできないといふことで、写真の提供があつたわけでございます。その写真には、二人で写つている写真と三人で写つている写真と、めぐみさんと写つている写真、それからキム・ヘギョンさんと合せて写つている写真、それに本人が写つていたと、そういうのがございました。それ以上に様々、本人の人物の特定ということでも、我々は今お話がありましたような、モニタージュという御質問もございましたし、様々の工夫も凝らしてございますけれども、これについては詳細に立ち入ることは控えさせていただきますというふうに思ひます。○白眞勲君 何で詳細に立ち入ることは控えさせていただきますか。それはおかしな感じがしないですか。我々一番知りたいところなんです、そこが。是非それによつと、もう一回ちょっと御答弁

願いたいと思います。

○政府参考人(数中三十二君) 今正に、かねてから御説明しておりますように、今回の調査結果についての全体の調査取りまとめの精査の作業を行っているところでございます。特定、本人の、人物の特定ということについても、その精査の作業の一環としていろいろの角度からやっておりますので、正に詳細については、全体の精査を行いますということと、この時点で詳細を御説明することは控えたいと、こういう趣旨でございます。

○白眞勲君 いろいろの話があるんですけども、例えば手に細胞採取のために何か薬品を塗つたりして、それでそこから細胞を採取するというようなやり方もあるというふうなことを聞いたことあるんですけども、数中さんはそれについて御存じでいらっしゃいましたでしょうか。

○政府参考人(数中三十二君) 私は承知しておりません。

○白眞勲君 是非こういった問題というのは、非常にやっぱりこれからの、日朝交渉をやるかどうかも含めましてですけども、大きな影響を及ぼす部分だというふうに思います。

昨日ですか、齋木審議官が工夫をしているということをおっしゃったんです。ですから、何かそういった工夫を考えているんでしょうか。もう一度御答弁願いたいと思います。

○政府参考人(数中三十二君) 先ほどお答え申し上げましたとおりでございます。人物の確定のため、特定のためにそれなりの工夫はしたということでございます。

○白眞勲君 じゃ、それは例えば工夫をしてその細胞が出てきたら、まあ細胞かどうか分かりませんけれども、そういったものでキム・チョルジュンなる人物が横田めぐみさんの夫であるかどうかというのが判明した時点でこれは発表しますか。父親、ごめんなさい、父親です。

○政府参考人(数中三十二君) いずれにいたしましても、これは政府全体で我々として精査の作業

をしているということと、またその結果については政府の中でよく調整をしながら、必要なことにつき、前向きな公表をしていく考えでございます。

○白眞勲君 是非この問題、真相究明という部分において、今回せっかく数中さん、北朝鮮、平壤に行かれました、私も、最後の日のあれは宋日昊さんですすかね、空港で飛行機の待合室のところにいる数中さんの映像を見まして、ほんとと疲れ切っている様子を私は見まして、本当に御苦労な仕事をされたんだというふうにも思いました。是非、今回の交渉でそういったいろいろなものを持ち帰ってほしいなというふうに思っています。是非、今回の交渉でそういったいろいろなものを持ち帰ってほしいなというふうに思っています。是非、今回の交渉でそういったいろいろなものを持ち帰ってほしいなというふうに思っています。

それで、続きまして、二十五万トンの食糧援助につきまして、人道援助についてお聞きしたいんですけれども、町村外務大臣は先週の十二月十日の衆議院の拉致問題特別委員会で二十五万トンの食糧援助にしましてはもう行わないという旨の発言をされましたけれども、それでよろしゅうございますか。

○国務大臣(町村信孝君) 本件につきましては、今年の五月の総理訪朝を受けて、それ以前は人道援助を差し控えていたわけでございますけれども、日朝関係をめぐる全般的な雰囲気改善という中から、小泉総理が食糧を二十五万トン、医薬品一千万ドル相当の人道支援を行うということとを表明したわけでございます。これは別に拉致問題に関する見返りとか対価とかいうことではなくて、国際機関の要請を受けて、そうした雰囲気全体の改善を受けてそれを決断をしたということとありまして、そういう中で、その後具体的な各国への要請がありましたものから、ワールド・フード・プログラムからそうした要請があったものでありますから、今年の八月に十二万五千トンの食糧支援、それから七百万ドル相当の医薬品を支

援をするということとでございます。

実際にこう持っていったものについては、二回はわたって現地調査をやってきておりまして、それはそれで必要なところには大体届いているようだという調査結果も上がってきているところでございます。

ただ、今回のこの遺骨と称されるものが、鑑定の結果本人のものではないということが判明をしたわけでございますから、こうした状況の中で仮にワールド・フード・プログラムの方からそうした人道支援の要請があったとしても、これに直ちに応ずる状況にはないと、かように判断をいたしましたので、今後、さらに残っている十二万五千トンについて今やる予定はないということと先般申し上げたところでございます。

○白眞勲君 ちよつとこれ、私の認識とちよつと違うんです。

私は、人道支援はこういう拉致問題完全に解決するまでは行うべきではないというふうに考えておりますし、また民主党もそういう考え方であり、そういう観点から、今までのいろいろな会議を通じて、この問題につきましては我々としていろいろな意見と申して、そして質問をさせていたわけでございますけれども、その中で、例えば小泉総理大臣は、この支援はあくまでも人道的な観点からなされるものであり、北朝鮮側には何らかの見返りを与えるというものではない、その後ですね、諸懸案については北朝鮮の対応と関連付けて実施されるものではないと、これ拉致問題です。つまり、拉致問題で北朝鮮の対応と関連付けて実施されるものではないということとをこれ言っているじゃないですか。言っているにもかかわらず、今の町村外務大臣のお話ですと、拉致問題に絡めてやっぱりやめたとおっしゃるじゃないですか。これ違うんじゃないですか、答弁が、そのときと。それについてはどういふうにお考えなんでしょうか。

○国務大臣(町村信孝君) 冒頭申し上げたように、直接的な対価、見返りと、これこれをやるからこれこれをしろよという関係ではないということとは先ほど私も申し上げましたし、それは累次総理もお話をしているとおりであります。ただ、こうしたいろいろな政策の実施というのは、いろいろな要素をまた考えていくということもあると思います。基本は人道支援でありまして、国際機関の要請を受けてそれを行うというものが基本であるかと思えますけれども、それは今の状況、今の雰囲気の中で、はい、残り、じゃ国際機関の要請もあつた、十二万五千トン出しますと、きつと白先生から猛烈な勢いできつとおしかりが来るんだらうと思えます。私どもは、そこは一度こう言つたからもう二度とそれを変えないということではなくて、外交というものは、一定の幅を持って柔軟性を持って対応をしていくというのにはある意味では当然のことではないだろうか、そういうふうな考えの結果、今後世界食糧計画からそういう要請があつたとしても、私どもは今これを応ずることは難しいんですよということをおっしゃったわけでありまして。

○白眞勲君 それちよつと変です。今の雰囲気ではと今、町村外務大臣おっしゃいましたけれども、今の雰囲気とそれから前回の雰囲気というのは、そんなに大きな違いというのは、日本国民の北朝鮮に対する認識というのは私は変わらなと思うんです。その当時だって、松木さんの骨が偽物だつたというのはその前からあつたんです。一回目の。今回横田めぐみさんの骨が偽物だつたから、じゃやめますということだつたんですか。そういう雰囲気じゃないと私は思います。

つまり、そもそもこの二十五万トンの米支援というのは、今正に町村外務大臣おっしゃったように、一種のこれは身の代金といいますが、そういったものとして小泉総理大臣が持つていって、十二万五千トンまず渡しますよと、ですから残りの家族を帰してくださいということのために使つたんだということが、今回これで判明したんじゃないかと、



の日程で第二陣が帰ってまいりましたけれども、これにつきましては、全体として、WFPも含めて、非常にきつちりとしたモニタリングが今回はできたというふうに考えております。

具体的には、受益者の視察ということで家庭訪問もいたしましたし、各地を訪れ、そしてまた我々の方から、現地に着後、希望する場所を指定するというようなことで、かなりアトラダムといいますが、計画的でない形でのモニタリングというのは非常に重要でございますけれども、そういうことを含めて、きつちりとしたモニタリングを実施できたということでございます。

○白眞勲君 是非それをペーパーで、どういったところはどういうふうにして回ったのかということも含めて、実施ちゃんとされましたということ、口ではなくてそれを是非御提出願いたいということ、院にお願いたしたいと思いますので、委員長、お願いしたいと思いますと思うんですけれども。

○委員長(内藤正光君) その申出につきまして、後刻理事懇にてお取り計らいしたいと思います。理事懇にてお取り計らいいたします。

○白眞勲君 最後でございますけれども、今、林委員からも指摘があったんですけれども、六か国協議につきましては、町村外務大臣は、ここは純粹には、基本的には核の問題を話し合う場であるということ、まあそうだと思います。しかしながら、やはりこの六者協議における、日本における立場というのは非常に重要であると思います。今の日本国民の、正に町村外務大臣も御認識されているように、気持ちとしては、この六者協議においてもし仮に核で北朝鮮が相当譲歩をしたとしても、日本国民は、拉致の問題が解決しない限りは、今後、北朝鮮に対する人道的な支援等も含めたいろいろな経済協力というのはやる気はないんではないかというふうにも思いますので、最後でございますが、六か国協議における拉致問題について、やはり町村外務大臣、相当強く、そのほかの四か国ですね、北朝鮮、まあ北朝鮮も考えると

五か国になりますけれども、働き掛ける、そういうおつもりはございますか。

○国務大臣(町村信孝君) 先ほども前の質問で申し上げましたけれども、アメリカ、韓国、中国、ロシア、それぞれの国とそれぞれのチャンネル、それぞれのレベルの協議、話し合いを通じてこの拉致の問題についての正しい理解を得、さらに、私どもの考え方に対する、事実関係のみならず私どもの考え方、対応についての理解も得る努力を既にやってきております。今後ともやっていきたいと、かように考えております。

そして、六者協議の場でも、全くこれは話題にしないということでもないと思っておりますけれども、六者協議は先ほどお話ししたとおりのことで、核の問題が議題でございますから、それを中心に話し合っていく。いずれにしても、無条件に可及的速やかにこの六者協議の場に北朝鮮が戻る、今は応ずる気配がないという状況でありますので、戻るような様々な働き掛けを引き続きやっております。

○白眞勲君 では最後でございます。

○委員長(内藤正光君) 時間が来ております。簡潔にお願いします。

○白眞勲君 はい、分かりました。

六か国協議、是非この六か国協議の場においてもいろんなチャンネルを通じて、是非この問題について働き掛けていただきたいと思っておりますし、それと、今回のこの問題については、小泉総理大臣が米というものを、食糧支援というものをカードにしてこの拉致問題の解決に、を使ったという、この外交的なカードとして、あるいは国民に対してそういう今までの言っていることと、場当たり的な外交をしていたということが判明したということ、今回こういっただことは是非やめていただきたいということ、申し上げて質問を終わりたいと思っております。

ありがとうございます。

以下、省略